シリーズ

# 安全衛生最前線

# 発注者・元請・下請間の連携密にし労災を防止
# “稼働を止めない工事”では歩車分離などを徹底

**株式会社ヨシザワ建築構造設計**

総合建設業を営む㈱ヨシザワ建築構造設計（本社：東京都中央区、従業員数65人（派遣社員を含む。2026年10月時点））は、顧客の工場や倉庫の稼働をできるだけ止めずに建替や増築、耐震改修、改築などの工事を行っている。

作業中の顧客と動線が被ることになるため、発注者（顧客）・元請（同社）・下請間で綿密な打ち合わせを行うことで歩車分離や人払いなどを徹底。毎朝行うKYでは当日の作業の危険ポイントについて職長に危険度を点数付けしてもらい、確実に対策が講じられているかを現場でチェックする。女性の現場監督が活躍するなど、多様な人材活用も進める。

編集部

工場や倉庫、事務所の建築を専門に行う同社。「ニッポンの工場を強くする。」というブランドミッションの下、顧客の要望やニーズを丁寧に聞き取り、企画～設計～工事・施工管理まで全てを自社で賄う。今年で創業 28 年を迎え、3,000 棟以上を建築した実績がある。

代表取締役の米田圭介氏は「当社ではお客様の工場や倉庫の稼働を止めず、建替や増築､耐震改修､改築などを行うノウハウ・工法を持っており、これらを通じて社会に貢献することを目指しています」と自社を紹介する。

編集部は９月上旬、同社が埼玉県入間市で施工している「青伸産業運輸㈱入間営業所第四配送センター新築工事」現場を訪れた。顧客の敷地内で平屋の鉄骨造倉庫の新築を行っており、取材当日は雨どいや壁パネルの設置がメインで、約１カ月後の竣工に向けて大詰めの段階だ。

専門業者が輻輳する他、新築倉庫のすぐ傍では顧客が通常業務を行っているのが特徴であり、発注者（顧客）・元請（同社）・下請業者の三者間での連携が重要になる。顧客には工事エリア内へ侵入しないよう求める他、朝礼・昼礼・災害防止協議会といった機を捉えて危険箇所や他業者との重複箇所などを同社・下請間で共有して労働災害の根絶に努める。






新築倉庫南側（↑）は顧客の大型トレーラーやフォークリフトが行き交う動線となっており、北側（←）では顧客のトラックが間近に駐車するといった、特殊な条件下での工事となる

作業所長の昆翔吾氏が特に気を配ったと明かすのが、歩車分離だ。配送や倉庫作業などにより顧客の大型トレーラーやフォークリフトが新築倉庫周辺を頻繁に行き交い、特に屋外に設けた同社現場事務所と新築倉庫の間は顧客の動線となっており、車両の往来が多い要注意箇所となっている。

昆所長は「お客様のトレーラーなどに接触することがないよう、進捗に応じて工事エリアと車両動線を分けることを徹底しました」として、作業員の動線にはグリーンベルトを敷いて仮設の歩行帯を設定した他、作業員に反射材付きの安全ベストを着用してもらうことで視認性向上を図る。運送業者にも顧客の車両と工事車両、それぞれの動線を事前に周知し、一時停止の励行を求めた。

顧客の作業を慮り、様々な配慮を重ねた



←現場事務所（左）と新築倉庫（右）の間は顧客の車両動線となっている






グリーンベルトにより仮設の歩行帯を設置し、この上を歩くようルール化している

歩車分離の一環として、倉庫側にはA型バリケード等を設置



点もある。新築倉庫北側付近の自動販売機の設置スペースは顧客の従業員が休憩等に利用するため、雑談などを行っている際は周囲での作業を控える等している。




顧客が休憩スペースにいる際はあえて作業をずらす等、気配りも欠かさない

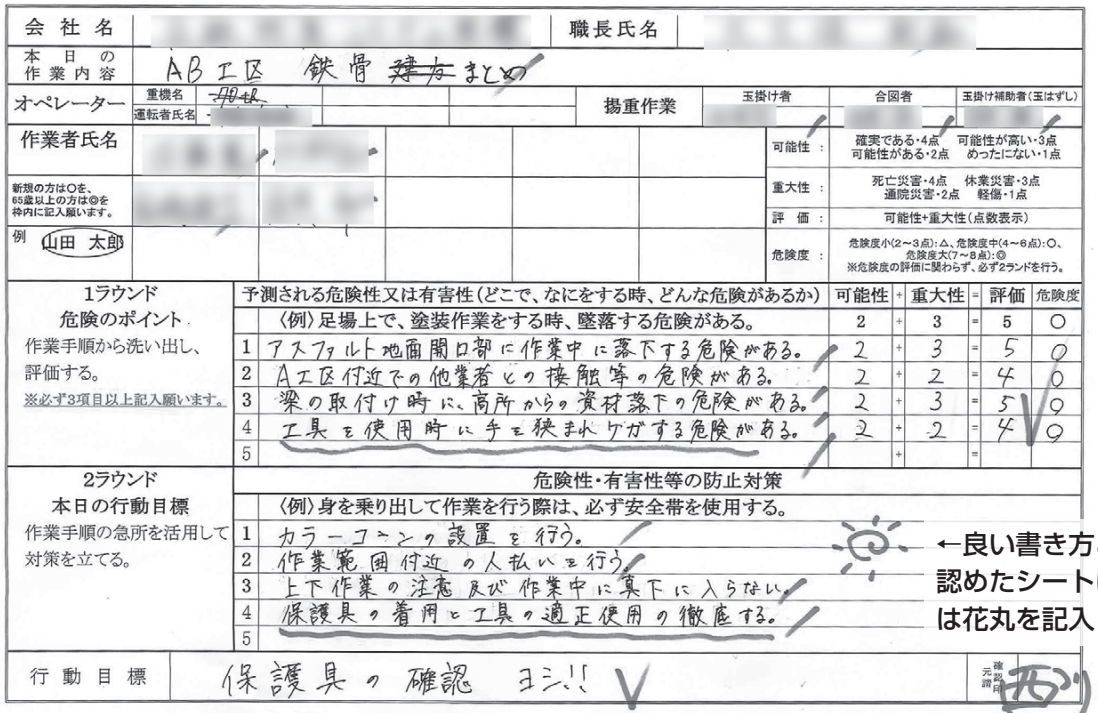
### その日の危険ポイントを職長が評価
### 文字のみならず点数と記号で「見える化」

日々現場の状況が変わる中、下請業者には朝礼時に当日の作業における危険ポイントと対策のための行動目標を決めてもらい、元請として遵守状況を確認する。

危険ポイントや対策を３つ以上記入している等、他業者が模範とするべき良い記入内容と認められたものには花丸を、赤ペンでKYシートに記入している。シートは当日中現場事務所前に掲示するため、記入した職長のモチベーションアップにもつながる試みだ。逆に記入内容が少ない等、修正が必要と感じた場合は適宜指摘し他業者にも周知する。「危険ポイントや対策等は現場全体で共有することにより、レベルアップを図りました」と昆所長が狙いを語る。

さらに、危険ポイントには点数付けも行う。危険ポイントが発生する可能性と重大性をそれぞれ職長の判断により１～４点で評価し、加算することで総合的な危険度の算定をしてもらい、危険度小（２～３点）：△、中（４～６点）：○、大（７～８点）：◎の３記号で表す。文章で記入した危険ポイントの危険度を点数と記号で分かりやすく示す「見える化」の取組である。

開口部への墜落の危険がある、クレーン作業中につり荷がほどけて落下する危険がある等、評価が７～８点で重篤な労働災害が発生するおそれがある「◎」の場合は、昆所長らが状況に応じて当該作業に立ち会い、巡回頻度を上げて安全に作業が行われているかを確認する。



会社名 ［　　］　職長氏名 ［　　］

本日の作業内容：AB工区　鉄骨建方まわり

オペレーター　重機名：ﾗﾌﾃﾚ　運転者氏名：［　　］　揚重作業　玉掛け者　合図者　玉掛け補助者（玉はずし）

作業者氏名　［　　］

新規の方は○を、65歳以上の方は◎を枠内に記入願います。

例　山田 太郎

可能性：確実である・4点　可能性が高い・3点　可能性がある・2点　めったにない・1点

重大性：死亡災害・4点　休業災害・3点　通院災害・2点　軽傷・1点

評価：可能性+重大性（点数表示）

危険度：危険度小(2～3点):△、危険度中(4～6点):○、危険度大(7～8点):◎　※危険度の評価に関わらず、必ず2ランドを行う。

1ラウンド　危険のポイント　作業手順から洗い出し、評価する。　※必ず3項目以上記入願います。

| | 予測される危険性又は有害性（どこで、なにをする時、どんな危険があるか） | 可能性 | | 重大性 | | 評価 | 危険度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 〈例〉足場上で、塗装作業をする時、墜落する危険がある。 | 2 | + | 3 | = | 5 | ○ |
| 1 | アスファルト地面開口部に作業中に落下する危険がある。 | 2 | + | 3 | = | 5 | ○ |
| 2 | A工区付近での他業者との接触等の危険がある。 | 2 | + | 2 | = | 4 | ○ |
| 3 | 梁の取付け時に、高所からの資材落下の危険がある。 | 2 | + | 3 | = | 5 | ○ |
| 4 | 工具を使用時に手を挟まれケガする危険がある。 | 2 | + | 2 | = | 4 | ○ |
| 5 | | | + | | = | | |

2ラウンド　本日の行動目標　作業手順の急所を活用して対策を立てる。

| | 危険性・有害性等の防止対策 |
|---|---|
| | 〈例〉身を乗り出して作業を行う際は、必ず安全帯を使用する。 |
| 1 | カラーコーンの設置を行う。 |
| 2 | 作業範囲付近の人払いを行う。 |
| 3 | 上下作業の注意及び作業中に真下に入らない。 |
| 4 | 保護具の着用と工具の適正使用の徹底する。 |
| 5 | |

←良い書き方と認めたシートには花丸を記入

行動目標：保護具の確認　ヨシ!!



KYシートを一部修正のうえ掲載

### グループ会長が率先して現場巡回
### 従業員の困り事などを改善

この他にも同社の現場では各種安全パトロールを積極的に展開中だ。外部の有識者（署長経験者である労働基準監督官OG）が、同社グループ企業の現場も含めて月１回のパトロールを実施。各種労働法の遵守状況やさらなる安全衛生の向上に向けてアドバイスを受ける。

また、同社グループの会長である吉澤宏泰氏もグループ３社の現場に対して積極的に現地またはオンラインで巡回を実施。現場監督の困り事などを吸い上げて改善している。

加えて、現場所長による相互パトロールも行われている。執行役員であり工事管理部工事本部長を務める酒井美毅氏は、「この現場を訪問した所長らはその整理整頓具合を評価しており、吉澤会長も『グループ１』と太鼓判を押しています。私から見ても昆の現場はいつも整然としています」と高評価する。

昆所長自身も、事務所やトイレ、喫煙所などの整理整頓にはこだわりがあり、そのことが現場全体に波及し、労働災害の未然防止につながることを期待しているという。自身も他現場のパトロールに前向きで、作業所長の色が出る建設現場の違いから色々と学びがあるとする。

各種パトロールで挙がった問題点等はグループ３社で共有して全体のレベルアップを図る。こうした安全管理により、同現場は工期中の無事故・無災害を目指した。

### 多様な人材活用、女性現場監督が活躍
### 誰もが働きやすい環境整備を進める

多様な人材を活用する同社。外国人労働

**現場における安全上の措置の模様**



重機や高所作業車などを扱う場合は人払いを徹底



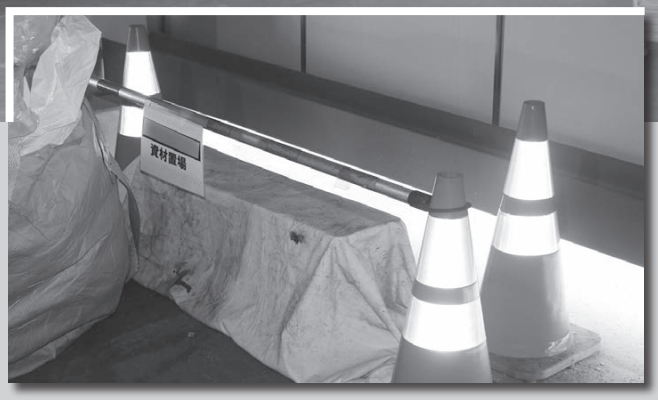



高所作業車による作業時にはフルハーネス型墜落制止用器具を使用させる



屋根上での作業に当たっては、墜落防止として手すり（太線部分）を設置。段ボールなどの飛散防止を図る追加措置として、手すりには黒いメッシュシートを被せることもある






**整理整頓に注力する昆所長。その想いが伝わり、下請業者も自社で使う資材を積極的に区画している（→）という**

者が作業所長や現場監督として活躍する。また、65歳以上の高齢者も現場監督や設計業務で現役を続けており、それぞれが役割を十二分に発揮できるよう会社として配慮している。

女性現場監督も在籍しており、その中の１人である西川靖子氏が本現場に配置されている。建築関係で働く父の姿を見てきたこと、女性の友人が現場監督をしていることで建設業界に興味があったと話す。

担当した現場は本現場で４カ所目となる中、初めて「次席」ポジションを担当し、昆所長を支える。

「これまでは所長と次席の背中を見てきましたが、ここでは工程や安全衛生、品質を管理することで自分が現場の基準になるという責任感も出てきたと感じます」と語る西川氏。権限が増える中、慣れないながらも業務を進めてきたことによる成長や充実感を口にする。

同社には以前女性の現場監督が在籍していたものの途絶えていたが、2024年に西川氏が入社して以降今年９月時点で４人に増加した。これを受けて、女性用の更衣室やトイレには予算を確保するなど女性が現場で働きやすくするための環境整備には積極的に動いている。

さらに西川氏は、女性の現場監督の中で入社年次が一番先であったこともあり、後輩女性監督のメンター役としてのポジションを築いているという。

「『温かい職場』となるように世間話なども含めて相談に乗り、悩みを一緒に解決しているところです。世間的には危険などのイメージがある業界を少しでも良くするための一部になれれば、と思っています」と語った。

◆

この他、田植えや稲刈りの時期は地元における農業との兼業を認める、子どもの保育園送迎が必要な場合は出社時は６時間勤務、在宅時は８時間勤務とする等、家庭の事情に応じた柔軟な勤務制度の整備にも力を入れる。

米田社長は「労働災害を防止するには『人を軸』として、働きやすい環境を整えることが必要と感じます。遠回りかもしれないですが今後も継続していきます」と意気込みを語った。



左から、酒井本部長、米田社長、昆所長、西川氏